



①茶かすの地蔵(ちやかすのじぞう)

長崎街道と秋月街道の分岐点の近く、桂川町にある「瀬戸の渡し」の東側に位置します。「瀬戸の渡しのそばに馬つなぎ場があり、近くに茶屋があった。茶屋に親切なお婆さんがおり、お茶のかすを捨てずに取っておき、よく乾かして貧しい人に与えた。もらった人は少しばかりのお礼をした。そのお礼で地蔵様を祭った」と伝えられています。「子供の夜泣き、乳もらい、あずけなどに霊験があり、お礼にお茶のかすをあげる」と伝えられています。



②③瀬戸の渡し(せとのわたり)

泉河内川の川岸に江戸時代「瀬戸の渡し」と呼ばれた渡し場がありました。この川は「川幅十間ばかり」であり、この川を渡るのは難所の一つに数えられており、参勤交代をするため旧街道を往復する大名行列もここで川を渡っていました。



④県道473号へ

案内版によると桂川町瀬戸と穂波町の境には、一里塚がありましたが、現在は宅地内になっており、目印の木があったが台風で倒れたそうです。江戸時代の歌人太田南畝は、文化2年(1805)12月14日に旧街道を穂波町天道に向かった際「一里塚がある。左右に松を植えている。」と記録しています。この辺で道は消失しているので、線路を渡り県道473号へ出ます。



⑤恵比須神社(えびすじんじや)

大正9年(1920)県道に認定され長崎街道の整地がされた頃、すでに恵比須社が建立されていました。当時、社の前に用水路があって丸太橋がかかっていました。拝殿内に恵比須のお面が飾られており、祠内(神殿)に恵比須様が祀られています。



⑥常楽寺(じょうらくじ)

宝永2年(1705)豊後国で創立。明治36年(1903)3月6日天道に寺院を創設しました。昭和37年(1962)9月4日、類焼を受け本堂全焼となり、昭和38年(1963)10月に本堂を再建しました。



⑦天道の町筋(てんとうのまちすじ)

天道の街道筋の東側家屋の下には、瀬戸方面から現天道駅付近まで用水路がありました。清流で鮭の遡上も見られたと古老の話が残っています。大正9年(1920)直方・久留米線として県道に認定され、昭和11～12年(1936～1937)にかけて道路拡張がされました。家屋移動で用水路もなくなり現在の町並みとなりました。



⑧天道神社(てんとうじんじや)

入口に立つ一の鳥居には「天道宮」の額が掛かり、境内まで三基の鳥居が建立されています。参道には倒立と起立の一对、社殿脇には大きな玉に乗った先代と思われる狛犬が一对居ます。境内には志賀三社・住吉三社・警固三社を祀り、鳥居の横の石祠は恵比須様です。祭神は天照大神で寛永7～8年(1630～1631)ごろ社を建て天道宮と号しました。



⑨⑩⑪天道駅(てんとうえき)

長崎街道はJR福北ゆたか線天道駅付近から県道を離れ万福ホルモン横の細い路地を歩いていきます。新道の交差点で再び県道473号を横断し楽市小学校の前へと続きます。天道・堀池用水は天道公民館裏の井堰から取水し、天道・楽市・松ヶ瀬・堀池の村々を川幅約3m、長さ3.5km強で、ほぼ長崎街道に並行して流れています。今も大切な農業用水であり、下水路としても大切に利用されています。



⑫⑬大将陣公園(たいしょうじんこうえん)

大将陣山は天慶4年(941)源満仲が藤原純友の反乱討伐の勅命を受け、当山に陣を置き天道の加護により亡ぼそうと西麓に日天子を勧請し祈ったので、大将陣山と称したと伝えられています。園内にはおよそ2,500本のソメイヨシノが植えられており、毎年4月第1日曜日には桜まつりが開催され多くの花見客で賑わいます。山頂には大将陣スタードーム(天文台)があり、第2、第4土曜日に観望会を行っています。



⑭大将陣社(たいしょうじんじや)

大将陣山頂に祀られています。祭神は水波能売命。朱雀天皇の承平・天慶年間(931～947)のころ、平将門と藤原純友の反乱(承平・天慶の乱)の際、源満仲が勅命を受けて先ず将門を東国にて討ち、純友を現在の大将陣に対陣し決戦しました。満仲は大将陣の麓に祀る天照大神に祈願し、全軍玉串を襟にさして戦い撃滅させたと言います。ほかに足利尊氏の陣所跡や大友氏・秋月氏の陣所などがあつたと記されています。



⑮⑯⑰⑱楽市の旧街道沿い(らくいちのきゅうかいどうぞい)

新道の交差点で再び県道473号を横断し道は略一直線に続きます。楽一小学校の前を通り、飯塚市役所穂波庁舎の裏を抜けると農地が開けます。ここから道は消失し、国道201号バイパスを横断した先から長崎街道が続きます。



⑲貴船神社(きふねじんじや)

貴船宮は長崎街道に沿った西側にあります。初めは西向きでしたが、文政のころに東向きに位置が変わりました。祭神は高甕神、閻魔神(たかおかみのかみ・くらおかみのかみ)で、祈雨や止雨の信仰が厚い。境内には菅原天神・大己貴命・少彦名命が合祀してあります。境内に神水の井戸があり、この水を飲むと病たちまちに治癒すると記されています。現在は石で蓋をしてありますが、おそらく長崎街道を旅する人たちの喉をうるおしていたのでしょう。



⑳徳前大橋(とくぜんおおはし)

長崎街道は穂波川にかかる徳前大橋より少し上流にありました。



㉑向町橋(むかいまちばし)

明治41年(1908)から大正5年(1916)に行われた遠賀川改修工事に伴い、長崎街道であるこの地に大正2年(1913)7月向町橋は建設されました。この場所は長崎から江戸にむかう大名や旅人を飯塚宿に迎え入れる地で、宿場時代の町名は「向町」でした。橋の呼称はこの町名にちなんで付けられました。木橋であったこの橋は昭和47年(1972)徳前大橋の完成とともに取り崩されました。

